第３学年国語科学習指導案

１　単元名　場面の様子をそうぞうしながら読もう　「ちいちゃんのかげおくり」

２　指導観

こんな子どもだから

○　子ども達は,「きつつきの商売」「ありの行列」等の学習を通して，文章の中で言葉の意味や働き，使い方などに注意しながら，場面の様子や段落の中心を読み取ってきた。そこで，本単元では,「文脈における言葉の意味と働き」「場面のつながりや働き」を考える読みを行う。さらに，読みや読み方は, 一人一人違いがあると気付き, 違いを大切にする中で豊かに思考し表現する力を養いたい。

○　３年生になると，思考の内容や組立も，具体から抽象，部分から全体へと向い，自分らしさや自己と他者との意識が芽生えてくる。このような中で,「モチモチの木」では，語り手に向き合って，自分はどう考えるかを表現できるようになった。本単元でも，ちいちゃんに寄り添いながらも，読み手として一般化する見方や，書き手と向き合って言葉の違いの中に心の違いを捉え，叙述に託された思いや願いの表現を考える読みを計画し，自分なりの感想をもたせていきたい。

こんな単元でこんな読みの力を

○　本教材は，戦争で家族を失ったちいちゃんが，家族を求め続け，自分の命までも空に送ってしまう話を通して，戦争の悲惨さと平和への願いを訴えている。戦争体験がない子どもにとって，知識や経験と叙述とを結んだ本質的な理解は困難であろう。しかし，ちいちゃんに寄り添い，思いをめぐらせ，それを通して書き手の思いを感じ取ることはできる。その「感じるもの」を生み出している言葉を丹念にたどり，吟味して,「戦争の悲惨さ」や「平和への願い」などの抽象的な概念に置き換えるのではない, 自分の思いを生み出す。

○「ちいちゃんのかげおくり」は，記念写真のかげおくり，お兄ちゃんとのかげおくり，命のかげおくりの３つから成り立ち，題名に直結するかげおくりは，４の場面に描かれている。そこで, 場面ごとの細密な読みではなく，文脈の中の出来事と言葉に視点をおいて，自分の読みを創る上ではっきりさせる必要のある４，５の場面を中心に，読み深め確かめる計画を立てる。これは，場面と場面，文章全体と場面との関係を考え，文章全体を通して読む力の素地となる。

○「空色の花畑」には，戦火の中死んでいったちいちゃんへの書き手の思いが凝縮されている。「空色の花畑」で表現された文脈上の意味をどう受け止めるのか, 語句の意味と働き，場面の展開，主題につながる思いの受け止めを学ばせたい。そして,「空色の花畑」から「小さな女の子」「空に消えました」の叙述を捉え,「こう書いて何が言いたいのか」を問い直す中で書き手の思いや願いへ読みつなぎ，感想を考えて見方考え方を広げる。

中学校での課題を受けて

■　改善の観点（Ａ－２）

○「ほのおのうずがおいかけて」「ひとりぼっち」「きっと」等の擬人法や修飾語,「食べました」「かじりました」等の類縁語が表現する様子を，比べる，はずす，置き換えるといった言葉の操作を通しながら，具体的な姿として自分の言葉で表現させる。

○「空の色」は，青とは限らない。ちいちゃんが命を懸けて体験してきた空（場面の様子）をたどり，ちいちゃんの「空の色や思い」と書き手が願いを託した「青い空」に気付かせていく。思考やイメージを操作を通して具体化するために，パソコンを活用し，画面上の可塑性を利用して試行錯誤しながら読みを生み出す活動を取り入れる。

■　改善の観点（Ｂ－２）

○「ちいちゃんのかげおくり」は，３つのかげおくりと何十年後の場面で構成されている。中学年の中心である「段落や場面」の読み取りで，言葉や文のつながりとまとまりをおさえる基本を徹底し，題名や場面の移り変わり，つながりの中で文章の山場を捉えるワークシートを工夫して，作品（文章）全体を意識する素地を養う。

■　改善の観点（Ｃ－２）

○　小さな女の子の命が空に消え，やがて誰も知らなくなった。この表象的な展開に内包される書き手の思いや願いを感じ取らせることが大切である。読みのめあてを「ちいちゃんのかげおくりって，どんなかげおくりなのだろう。」と設定し，文脈をたどって自分の脈絡を生み出しながら自分の感想を組み込んだ読みをつくらせていく。

こんな子どもに（単元目標）

○「ちいちゃんのかげおくり」を支えている言葉に立ち止まって，言葉の違いから様子を考えて心の違いを読み取り，その意味と働きをたどり結んで，書き手の思いや願いを感じ取り，ちいちゃんのかげおくりをどんなかげおくりといえばよいのかを，自分の言葉で表現できるようにする。

○「小さな女の子」「空に消えました。」と表現し,「それから何十年。」後の世界で読み手に語りかける思いや願いを受け止め，自分の立場から感想をまとめることができるようにする。

中学校へどうつながっていくのか

○　作品の展開の中で変化したり重層化したりして伝えたい内容を構成している中心的な言葉に気付かせ,「言葉の違いは心の違い」を生み出していることを読み取る学習は，低学年の「言葉の通りに読む」を踏まえて，高学年の「文脈の中の固有の意味」へつながり，中１での「文脈における語句や意味の用法」へと発展する。また，言葉の意味と働きの違いや役割が，伝えたい内容や思いを生み出していることに気付いて，全体の構造に着目する学習は，中２・３の「書き手の思考や心情に迫り，それを踏まえて読み手の立場から考え，文章全体を受けて自分の意見をもつ」につながる。

３　学習計画（全１４時間）

次	時	学習のねらい	主な学習活動と指導上の留意点
めあてをもつ	1	○　題名「ちいちゃんのかげおくり」と冒頭の一文をつないで読みのめあてをつくる。 ＜読みのめあて＞	○　単元名に示された読み方について話し合う。 ○　題名「の」に着目しながら，冒頭を読み取って，読みのめあてをつくる。 （Ｂ－２）「スーホの白い馬」「きつつきの商売」を想起しながら「ちいちゃんの」と限定されている意味を考え，「の」の働きを確かにする。
		ちいちゃんのかげおくりって，どんなかげおくりなのだろうか。	
／読みをもつ	2・3・4	○　読みのめあてを基に全文を読み通し，「ちいちゃんのかげおくり」とは，どんなかげおくりなのかを自分の読みとしてまとめる。 ＜読みの方向＞	○　ちいちゃんのかげおくりがなされた場面（文章の山場）を捉える。 （Ｂ－２）全体の構造を見通すワークシートを工夫する。 ○　１の場面のかげおくりは，ちいちゃんにとってどんなかげおくりなのかを確認し，４の場面のかげおくりにつないだり比べたりして考えることができるようにする。 ○　自分なりの読みを書きまとめ，伝え合う。 （Ｃ－２）単なる事実だけでなく，自分の感想も入れて書きまとめるように指示する。
		ちいちゃんのかげおくりとは，家族に会いたくてたまらないちいちゃんが，さいごの力をふりしぼって，たった一人でした命のかげおくり。そんなかげおくりを，かわいそうでたまらないかなしいかげおくりだと思う。	
／計画を立てる	5	○　自分達の読み取りの違いや曖昧さ，疑問を確かめていく計画を立てる。	○　家族に会いたい命のかげおくりであることと，空色の花畑や現在の場面を描き言葉を変えた書き手の願いとを確かにするために，何をどう確かめていくのか見通しをもつ。 （Ｂ－２）自分達の読みを直接支えている４，５の場面を中心に読みを深め確かめていく計画を立てる。 ・　学習計画を表に整理して，掲示しておく。
／読みを深め確かめる	6・7・8・9・10・11・12・13	○　計画に沿って読み深め，確かめていく。 （１）　家族に会いたい命のかげおくりであることを読み確かめる。 （２）　空色の花畑や現在の場面を描き言葉を変えた書き手の願いに気付く。	○　４の場面のかげおくりをするちいちゃんの姿を，１，２，３の場面とつなぎ，家族みんなのかげおくりの場面と比べて読み深め，どんなかげおくりといえばよいかを確かめる。 （Ａ－２）修飾語や擬人法，類縁語が表現する様子を，比べる，はずす，置き換えるといった言葉の操作を通しながら，具体的な姿として自分の言葉で表現させる。 （Ｂ－２）お父さんのかげおくりとは違う「命のかげおくり」であることを，場面を比べたりつないだりして考えるワークシートを工夫する。 ○　空色の花畑がどんなところか，どうしてこんな場面があるのかを考える。 （Ａ－２）文脈の中でちいちゃんが見てきた空をたどり，必要な様子や言葉を集め，解釈し，自分なりの脈絡で，空色の花畑の情景とその意味を表現させる。このとき，思考を広げ，深める道具として，パソコンを活用し，具体的な操作を通して，考えを広げ深めることを学ばせる。 ○「小さな女の子」「空に消えました」という言葉が使われているのはどうしてかを考える。 ○　ちいちゃんはもういないのに，５の場面があるのはどうしてかを考える。 （Ｂ－２）言葉を変えたり，現実にはありえない場面や現在の場面を描いたりしている，全体の構造が見えるワークシートを工夫し，書き手が「ちいちゃんのかげおくり」をどのように受け止めているのかを考えさせる。
／まとめる	14	○　読みと読み方のまとめをする。	○　題名にもどって，自分の読みと読み方を振り返る。 （Ｃ－２）書き手の願いを受け止め，感想を書きまとめて伝え合う。 （Ｂ－２）（Ａ－２）題名の働き，場面や言葉に着目した読み方をまとめる。

第１１時

４　本時　（１１／１４）

５　本時の目標

○　「空の色」を文脈の中で追求し，「空色の花畑」の様子や書き手の思いを考えながら，文章全体におけるこの場面の意味を自分なりに受け止め，読みを深く豊かにしていくことができる。

６　本時学習における授業改善の観点

○　（Ａ－２）情景や人物の姿を思い描きながら，言葉の違いは心の違いとして読む力

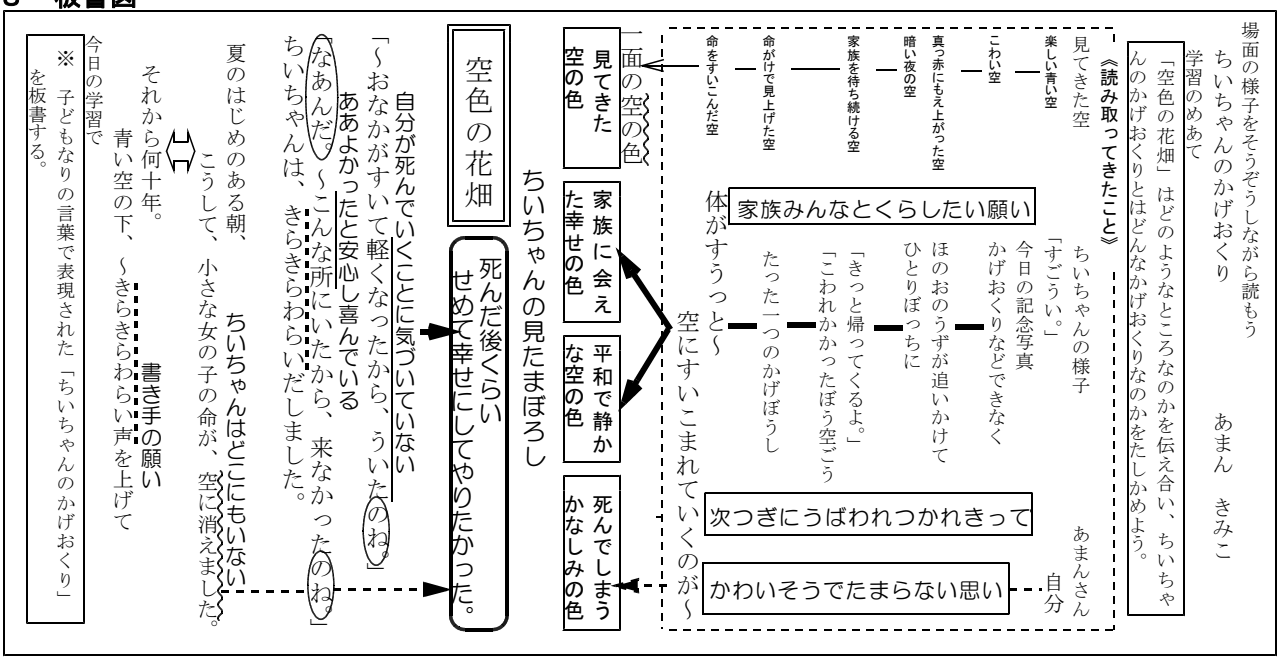
・　「空色の花畑」に着目させ，ちいちゃんが見てきた空をたどり，様子や言葉を集めて解釈し，パソコンを思考を深める道具として活用しながら自分なりの脈絡で表現することを通して，「空色の花畑」という言葉に込めた書き手の思いと哀しみに気付かせる。

７　本時指導についての基本的な考え方

○　本時は，空色の花畑でのちいちゃんが描かれている場面を読み取り，そう描いた書き手を考えることを通して，自分の読みを深く豊かにしていく学習である。「ちいちゃんのかげおくり」が「かなしい命のかげおくり」であるはずなのに，明るい声で話し，きらきら笑い出すところに，子ども達は疑問を感じている。そして，ちいちゃんが立っている「空色の花畑」はどんなところか，ちいちゃんが見ている「空」はどんな色かを考える必要感をもっている。「空の色」は，ちいちゃんに寄り添ったときにはきれいな幸せの色であるが，読み手としてみたときには哀しい死を迎える色である。そして，「空色の花畑」という言葉には，ちいちゃんを幸せにしてやりたいと願った書き手の思いと哀しみが凝縮されている。「空の色」は，１の場面の「青い空」とは違う。言葉の違いに心の違いを見出し，ちいちゃんが生き，経験した様々な空を踏まえた「空の色」からの「空色」，さらに「空色の花畑」という叙述で表現された文脈上の意味と，それを通して何を伝えようとしているのかを，豊かに考えて読み取らせたい。どんな「空の色」なのか，なぜ「花畑」なのかを考えるとき，ちいちゃんが見てきた空の色をたどり，必要な場面の様子や言葉を集め，解釈し，自分なりの脈絡をもって読みを創っていくとともに，ちいちゃんの姿をまざまざと描いて，書き手の思いに気付いていくことができると考える。

○　以上のような「空の色」と「空色の花畑」を追求させるために，思考を広げ深める道具としてパソコンを活用する。「空の色」「空色の花畑」の様子を念頭操作で想像するという思考や表現の内面的な過程を，パソコンの活用を通して具体的な形や操作として置き換えるのである。そして，叙述と画面上の表現との間で試行錯誤しながら考えや表現を生み出させ，考えを「広げる」「深める」ことを学ばせたい。話し合いに際しては，自分が表した「空の色」の，色の選び方，塗り方，配色の仕方といった描き方を基に，どうしてそのように描いたのか，読み方や考え方を伝え合う。念頭操作だけでは語れなかった「空の色」と「空色の花畑」を，「死んでしまうちいちゃんをせめて幸せにしてやりたかった」という書き手の思いと深い哀しみに気付かせる方向で検討させていきたい。

８　板書図



９　展開

学習活動と内容	指導上の留意点
１　本時学習のめあてを確かにする。 ○　パソコンを使って自分なりに捉えた「空の色」を伝え合い，自分の読みを見直していく学習であることを確認する。	○　学習計画の表を使って，本時学習の位置付けを振り返り，何をどのように確かめていくのか見通しをもたせる。
学習のめあて 「空色の花畑」はどのようなところなのかを伝え合い，ちいちゃんのかげおくりとはどんなかげおくりなのかをたしかめよう。	
２　自分が文脈の中で捉え表現した「空の色」を基に，「空色の花畑」の様子について話し合う。 （１）　自分が受け止めた「空の色」を伝え合う。 （Ａ－２） ・　パソコンで描いた「空の色」を提示しながら，自分が表現した色とその理由を説明する。 ＜予想される子どもの反応＞ ・　今までひとりぼっちでみんなを待っていたちいちゃんが，やっと家族に会えてきらきら笑っているから，スプレーで明るい青い色に塗りました。 ・　下の方は，空襲にあったりさびしく死んだりしたから赤や黒にしたけど，せめて幸せにしてあげたかったんだと思うから，明るい平和な色にしました。 ・　死んでいってしまうのに，明るいのはおかしい。ぼくは，明るい色にしたかったけど，死んでいったちいちゃんがかわいそうで，明るくは塗れませんでした。 ・　「空の色」の描き方の違いに，どのことばや場面の様子を集めて解釈したのかという読み方やこの場面をどう意味付けているのかという考え方が表れていることに気付く。	○　自分がどうしてそのように表現したのかを文脈の中で確かにさせながら説明したり，友達がそのように表現した理由を自分と比べながら聞いたりするように指示する。 （Ａ－２） ○　教師は，子ども一人一人の「空の色」の表現とその子なりの筋道を事前に把握して，どの子のどこに考えを見直すポイントがあるか，それを学習展開の中にどう仕組み，子ども達に返していくのかを考え，想像に任されている場面を表現しながらその意味に気付く伝え合いの構想を立てておく。その構想を基に，叙述や表現のもつ意味や働きを考える発問と板書を行う。
（２）　それぞれの受け止め方の違いから，「空色の花畑」に込めた書き手の思いを考える。 ・　自分が死んでいくことに気付かず，きらきらわらうちいちゃんの姿とその意味を読み取って ・　「空に消えました」や「それから何十年」に着目し，「空色の花畑」で終わらなかった意味を考えて	○　どの子どもにも共通している「ちいちゃんを幸せにしてやりたかった」という願いを，きらきらわらう姿に結んで，表現に込めた書き手の思いを確かにさせる。 ○　なぜ「空色の花畑」の場面で終わっていないのかを問い返し，よかったとは思っていない書き手の哀しみに気付かせる。
３　伝え合いを通した自分の読みと表現を見直す。 ＜予想される子どもの反応＞ ・「空色の花畑」は，ちいちゃんにとっては楽しいところだけど，本当は死んでいってしまうかなしいところ。今まで，かなしいことばっかりあったちいちゃんだから，このままたった一人で死んでしまったらかなしすぎるから，最後に一回だけ幸せにしてあげたくて，本当はありもしないまぼろしを作って，会いたくてたまらない家族に会わせてあげたんだと思う。あまんさんも私も，ちいちゃんを助けてあげられなくて，家族に会いたい願いが本当にはかなえてあげられなくて，かなしい。	○　自分の読み方や考え方を見直し，付加修正しながら，自分が受け止めた「空色の花畑」を次の３つの視点で表現させる。 ・　どんなところか ・　どうしてこの場面を描いたのか ・　自分はどう思うか
４　本時学習のまとめと，次時学習の確認をする。 （１）　自分達の読みの深まりと学び方を振り返り，学習のまとめを書く。	○「空色の花畑」の様子を，パソコンを活用しながら言葉に着目して自分なりの筋道で考えたり，友達と伝え合ったりしたよさを認める。
（２）　次時は，「小さな女の子」「空に消えました」という言葉が使われているのはどうしてかを考え伝え合うことを確認する。	○　学習計画の表を示して，次時学習の見通しを持たせる。